

| | | |
|---|--------------|----------------|
| 授業科目名： リサーチインターンシップ | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 指導教員 |
| 専攻・コース名 博士後期課程共通科目 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | |
| <p>リサーチインターンシップの目的は、最先端研究や技術を有する企業や研究所において、応用研究のプロセスを実地で体験し、科学や技術の応用を目的とする現場で有能な研究者や技術者、あるいはコンサルタントとなりえるようなスキルを習得し、また、そこで必要とされる技術・知識等と大学院での研究・学術理論との関連性を理解することである。専門分野の理論と応用現場・実務との関連を明確に理解することが目標である。したがって、学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現場でのチームワークを発揮できる 2. 短期間での課題達成能力と時間管理能力を身につけ、行動できる 3. 実務専門家同士としての十分な相互にコミュニケーションを取り、人的ネットワークを作ることができる 4. 違った目的や関心をもつ人々や消費者、一般市民と純粋な研究・教育組織である大学院とはことなる複雑な社会で協働できる <p>以上の能力を身につけることが期待される。</p> <p>これらの目標の為に、現場で指導をうけながら実践活動を行うほか、適宜、教員あるいは現場の指導者によって指示された参考文献を使用し、ディスカッションを行うほか、レポートやポートフォリオを作成する。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>最先端技術を有する企業・研究所などにて現地研修を行う。指導教員による研修前後のオリエンテーション、技術指導も行う。</p> <p>学生は、研究テーマと関連する応用分野の企業や研究所、あるいは官公庁を、担当教員との相談によって選び、何を目的にインターンシップに向かうのか明確に意識した上で、インターンシップの派遣先では、現場の責任者の指示にしたがって研修をおこない、評価をうける。インターンシップ修了後は、事前の目的に照らし合わせて、「振り返り」をおこない、今後の研究やキャリアについて、指導教員との懇談を行い、さらに、報告会で明確かつ簡潔なインターンシップの経験について発表する。</p> | | |

授業計画

インターンシップ先の選定は、指導教員と十分協議の上、指導教員がインターン先に相応しいと認めたものとする。インターンシップ期間は原則、通算2週間以上とし、夏期または冬期休暇期間中に実施する。インターンシップ期間中は研修内容のレポート（日誌）を作成し、それとともにインターンシップ終了後に作成する報告書を担当教員に提出し、報告会を行い、担当教員による評価を受ける。

・実施前オリエンテーション

1. インターンシップ場所の選定と概要、自己のキャリア意識（レポート）
2. インターンシップ先との合意、自己紹介、インターンシップ目的の説明を受入れ側にする、職場の注意を理解する。
3. インターンシップ先の雇用者、および顧客等の性質を理解する。
4. インターンシップ派遣先の組織、業務をチャート化する。
5. ポートフォリオを準備する。

・インターンシップ（2週間以上、または、56時間以上実施）

6. インターンシップのジャーナル（日誌）をつける。
7. 応用研究スキルを身につけ、その過程をジャーナルに記録する。
8. 現場の研究者、社員、顧客などの研究やサービスの受け手と話をし、そこで理解したものをジャーナルに記録する。
9. 仕事の計画、進捗状況、結果を記録し、分析する。
10. インターンシップ受け入れ先の指導者・責任者と面談をし、評価を受ける。

・事後指導・報告会

11. ジャーナルや記録を整理し、事後報告レポートを書く。
12. 報告会で自己のインターンシップを明確・簡潔にプレゼンテーションをする。
13. インターンシップの成果をポートフォリオにまとめる。

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

なし。

学生に対する評価

レポート、報告書、発表などにより総合的に評価する。